

令和5年度「外国語に触れる機会の創出」事業 審査基準（評価項目、評価の観点及び配点表）

評価項目	分類別配点	評価の内容、観点
1 総論等		
(1)事業内容全体の理解度	10	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の趣旨を正確にとらえた内容となっているか。 ・学校の教育活動として実施することを踏まえた提案となっているか。
2 事務局の運営体制		
(2)業務体制	10	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な業務運営に必要な事務局体制が整っているか。 ・統括責任者、ネイティブ人材等は、業務実施に当たって必要な能力や経験を有した人選となっているか。 ・人員配置計画は業務内容やスケジュールに沿っており、円滑な業務運営のために十分な体制となっているか。また、状況に応じて柔軟に対応できる体制となっているか。 ・島しょを含む都内全域の学校を対象に事業を実施する体制が構築されているか。
(3)進捗管理	10	<ul style="list-style-type: none"> ・本業務を遅滞なく遂行するために必要な進捗管理方法となっているか。 ・進捗状況について、常に東京都教育委員会と共有できる管理方法となっているか。
(4)研修体制	20	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ人材を対象として、小学生の発達段階や、人権に配慮した行動等について十分な理解を促す研修を実施する体制が構築されているか。 ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語活動・外国語編や文部科学省作成第3・4学年用外国語活動教材、第5・6学年用外国語教科書等の内容を参考に、ネイティブ人材が平易な英語で児童と話すための研修を実施できる体制が構築されているか。
3 プログラムの企画		
(5)プログラムの質	30	<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項において指定された種類のプログラムが開発されており、第1学年～第6学年（又は低学年・中学年・高学年）に属する児童がそれぞれ楽しめるプログラムが用意されているか。 ・提案プログラムに具体性や実現性は伴っているか。 ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語活動・外国語編や文部科学省作成第3・4学年用外国語活動教材、第5・6学年用外国語教科書等の内容を踏まえたプログラムとなっているか。 ・児童が安心・安全に参加できるプログラムとなっているか。 ・児童の発達段階に応じたプログラムとなっているか。
(6)プログラムの創意・工夫	40	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心を惹きつける魅力的なプログラムとなっているか。 ・募集要項に示されたプログラム例の他に、創意・工夫が盛り込まれたプログラムが用意されているか。 ・型にはまった英語のフレーズや単語の発音練習に留まらない児童が英語で自分の思いや考え等を伝える体験ができるプログラムとなっているか。 ・なるべく多くの児童が参加し、英語を話す意欲や発話力を向上できるようなプログラムとなっているか。
4 プログラムの実施		
(7)実施体制	40	<ul style="list-style-type: none"> ・実施に向けて、多くの学校と円滑に調整していくための考え方（体制や手法等）が具体的に示されているか。 ・実施に当たり、学校の負担が極力少なくなるような工夫がされているか。 ・公立小学校の教職員等から、当該校を訪問するネイティブ人材への直接命令・指示が発生しないよう、実施体制が工夫されているか。 ・実施当日、不測の事態（ネイティブ人材等の欠勤・遅刻等）が発生した場合等でも、代替の者を訪問させるなど柔軟に対応できるような体制となっているか。 ・緊急時でも、スムーズに連絡が取れる体制が整っているか。 ・プログラムの調整・実施を行うにあたり、適正な規模の体制となっているか。
5 これまでの業務実績		
(8)業務実績	20	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内の教育委員会と契約した実績があり、当該契約において、外国語活動・外国語の授業に従事する外国人を公立小学校に派遣した実績を有しているか。 ・学校や区市町村教育委員会の求めに応じ、イングリッシュ・キャンプ等の児童・生徒向けの英語活用プログラムの企画・立案及び運営業務の実績を有しているか。 ・公立小学校又は中学校に派遣される外国人に対して、児童・生徒の発達段階に関する理解や人権に配慮した行動等についての研修を実施した実績を有しているか。 ・1年間で、どれくらいの実績があるか（多数の実績があるか）。
6 その他		
(9)その他項目	10	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して、想定を上回るような魅力的な提案がなされているか。 ・費用対効果を意識した提案がなされているか。
7 政策的評価項目		
(10)環境マネジメント等	5	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれかに該当があるか。 ①ISO14001に関して、公益財団法人日本適合性認定協会の認証を受けている。 ②エコアクション21について、一般財団法人持続性推進機構の認証を受けている。 ③エコステージについて、一般社団法人エコステージ協会の認証を受けている。 ④KES・環境マネジメントシステム・スタンダードについて、特定非営利活動法人KES 環境機構等の認証を受けている。 ⑤とうきょう森づくり貢献認証について、東京都産業労働局から認証を受けている。
(11)仕事と家庭の両立支援・女性の活躍推進関係	5	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれかに該当があるか。 ①東京都産業労働局から東京ライフ・ワーク・バランス認定企業の認定を受けている。 ②東京都生活文化スポーツ局から東京都女性活躍推進大賞の表彰を受けている。 ③厚生労働省または都道府県労働局から次世代育成支援対策推進法に基づく認定（くるみんマーク認定）を受けている。 ④厚生労働省または都道府県労働局から均等・両立推進企業表彰を受けている。 ⑤厚生労働省または都道府県労働局から女性活躍推進法に基づく基準適合一般事業主認定（えるぼし認定）を受けている。 ⑥女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定・公表をしている。

令和5年度「外国語に触れる機会の創出」事業 審査基準（企画提案書記載事項）

評価項目	提案書記載事項
1 総論等	
(1) 事業内容全体の理解度	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の趣旨や提案者に求められている役割について、提案者の理解を記載すること。 ・本業務の目的を実現させるための全体方針（コンセプトなど）について、具体的に記載すること。
2 事務局の運営体制	
(2) 業務体制	<ul style="list-style-type: none"> ・本業務の実施体制図及び年間の人員配置計画を記載すること。 ・統括責任者の類似業務経験等客観的な指標を用いて、本業務に必要な能力等を備えた責任者が割り当てられていることが分かるよう記載すること。 ・ネイティブ人材について、本業務に必要な能力等を備えていることが分かるように記載すること。 ・島しょを含む都内全域の学校を対象に事業を実施するための体制を記載すること。 ・状況に応じて柔軟に対応するための工夫について記載すること。
(3) 進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況の進捗をどのように管理していくか、東京都教育委員会とどのようにその情報を共有していくかについて具体的に記載すること。
(4) 研修体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ人材を対象とした研修体制について記載すること。その際、時期や期間、内容等が分かるようにすること。 ・研修を通じて、ネイティブ人材にどのような力を身に付けさせることを目指しているか記載すること。
3 プログラムの企画	
(5) プログラムの質	<ul style="list-style-type: none"> ・「イングリッシュ・ウィーク」について、「外国語活動・外国語の授業」、「外国語活動・外国語以外の授業」、「学校生活の中」で行うプログラム例を、それぞれ学年別（低学年・中学年・高学年の別でもよい。）・教科等別に記載すること。なお、「教科等別」については、本事業の趣旨を踏まえ、実施可能な教科等について記載することとし、小学校学習指導要領（平成29年告示）に示されている全ての教科等について記載しなくともよい。 ・「イングリッシュ・キャラバン」について「自分の学校や町を紹介する活動」、「英語を使って遊ぶ活動」、「世界の絵本に触れる活動」、「学校を案内する活動」で行うプログラム例を、それぞれ学年別（低学年・中学年・高学年の別でもよい。）に記載すること。その際、同じプログラムを複数学年で示すことや、同じプログラムで難易度を調整し、異なる学年のプログラムとして示すことは妨げない。 ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語活動・外国語編や文部科学省作成第3・4学年用外国語活動教材、第5・6学年用外国語教科書等の内容をどのように踏まえプログラムを作成しているか記載すること。 ・児童が活動に安心・安全に参加できる仕組みについて具体的に記載すること。
(6) プログラムの創意・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような工夫を行い、児童の興味・関心を惹いていくか伝わるように、具体的な内容を記載すること。 ・上記「プログラムの質」の項目で東京都教育委員会が示したプログラム例の他、事業者独自のプログラム案がある場合は積極的に提案すること。 ・どのような工夫により、より多くの児童の英語を話す意欲や発話力を向上していくか具体的に記載すること。 ・児童が自分の思いや考えを伝える場面を設定しているか、分かりやすく記載すること。
4 プログラムの実施	
(7) 実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・所在地や学校規模が異なる約300校の学校でのプログラム実施に対して、どのように必要な人員や教材等を確保し、確認を行っていくのか、その体制や手法等について記載すること。 ・学校の希望によりプログラムが選択される中、経費内訳書の価格内でどのように運用していくのか、その具体的な運用の考え方等について記載すること。あわせて、訪問に際しての学校への事前確認等に関して、学校の負担を軽減する方法があれば記載すること。 ・公立小学校の教職員等から、当該校を訪問するネイティブ人材への直接命令・指示が発生しないような実施体制の工夫について、分かりやすく記載すること。 ・実施当日の体制や緊急時の体制を記載すること。
5 これまでの業務実績	
(8) 業務実績	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに日本国内の教育委員会と契約し、外国語活動・外国語の授業に従事する外国人を公立小学校に派遣した実績が分かる一覧を提出すること。（件数が多い場合は、代表的な案件を抽出すること） ・本事業で行うプログラムにに関連するもので、イングリッシュ・キャンプ等、児童・生徒向けに実施した英語活用プログラムの企画・運営業務の実績があれば、日時、場所、実施内容等を具体的に記載すること。（件数が多い場合は代表的な案件を抽出して記載すること） ・イングリッシュ・キャンプ等、児童・生徒向けに実施した英語活用プログラムの実績について、過去5年間のうち、最も多かった年の実施件数を記載すること。
6 その他	
(9) その他項目	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業実施に当たって、費用対効果を踏まえた取組や更なる工夫・有用な提案があれば、その根拠とともに具体的に記載すること。
7 政策的評価項目	
(10) 環境マネジメント等	<ul style="list-style-type: none"> ・該当がある場合、登録証書や認証書の写し等を提出すること。
(11) 仕事と家庭の両立支援・女性の活躍推進関係	<ul style="list-style-type: none"> ・該当がある場合、取得、認定等の状況が分かる資料を提出すること。